

新^{しん} 緑^{みどり} ニュース

病院の理念

確かな医療技術
やさしい対応
地域への貢献

さんきかい よこはましんみどりそうごうびょういん
医療法人社団 三喜会 横浜新緑総合病院
〒226-0025 横浜市緑区十日市場町1726-7
TEL. 045-984-2400 (代表) FAX. 045-983-4271
発行 地域医療連携室 TEL.045-984-6216 (直通)



病気の話 「コロナ禍と脳卒中あれこれ」

横浜新緑総合病院 脳神経外科 医長 阿部 克智

2019年に突然発生した新型コロナウイルス感染症。

新型コロナと言うからには旧型コロナも存在します。SARS-CoV-2と呼ばれるのが現在流行中のコロナウイルスで、その中にδ(デルタ)やο(オミクロン)と呼ばれる変異種があります。

他にSARS-CoVというウイルスもあります。このウイルスが2003年に大流行し、重症急性呼吸器症候群 (SARS: サーズ)と呼ばれていました。これら二つのウイルスはいわば姉妹とも言える関係にあり、類似した性質を持っています。呼吸器症状が強くなる、というのも類似した性質の一つです。

【感染症流行による受診者の減少】

そんな新型コロナウイルス感染症の流行により、脳外科に限らず受診数の減少や、急性期脳卒中に対する治療の遅れや、治療数の減少が認められます。人間ドック受診者がコロナ前より30%減少した事で、がん患者の早期診断ができてない(=進行がんになって初めて発見される)様な事態も起きています。

ニューノーマルと言われる新たな生活様式が求められていますが、病院での診療は継続しています。健康を維持するための受診について、専門である脳卒中を中心に考えてみたいと思います。

【新型コロナウイルス感染症と脳卒中】

コロナウイルス感染症患者の1%程度に脳卒中が合併して

いると言われています。脳出血は稀で脳梗塞が多く、同じ血管障害である心筋梗塞などよりも多いと言われています。

高血圧や糖尿病の合併、脳梗塞の既往歴のある患者の方はコロナ感染により脳卒中を発症するリスクが上がります。今まで以上に予防が重要となっている、とも言えます。

【定期受診の継続】

疾患の進行はコロナ禍でも待ってはくれません。ワクチン接種も重要ですが、それ以上に高血圧などの疾患の早期発見や日々の予防・治療が重要となってきます。

院内では十分な感染対策を行いながら治療をしています。脳ドック・人間ドックに関しても同様です。コロナ前と同様、定期的な受診をお願いします。(ただし、発熱などあれば受診の前に電話でご相談をお願いします)

脳神経外科ではこのコロナ禍でも例年と同等の症例数の脳血管内治療や手術を行っています。入院時には全例コロナ抗原検査・PCRを行い安全を確保しながら治療を行っています。

治療に際して不安があれば、今までと変わらずご相談ください。お待ちしております。



AI (人工知能) 問診の紹介

当院では、感染対策と診療効率の向上を目指し、2021年1月よりAI問診を導入しています。

AI問診では、スマートフォンでQRコードを読み取っていただくか、専用タブレットを使い、質問に従って問診内容を入力していただきます。問診は一律ではなく、患者さまの回答からAIがより適切な質問を選び、これを繰り返します。内科で試行を開始し、現在は使用する診療科を皮膚科・乳腺外科まで拡大しています。

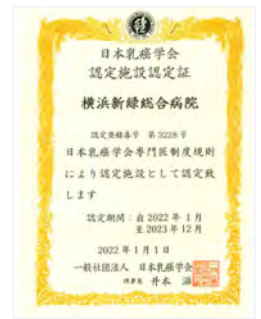
ご利用は感染防止にもなるスマートフォンでの問診をお勧めしています。医師に確認したい内容を文字入力できる機能もあり、伝え忘れを防ぐこともできます。操作は随時サポートさせていただいております。また、まだ新しい技術ですので、お気づきの点があれば是非お聞かせください。





日本乳癌学会認定施設に認定されました。

この度、当院は一般社団法人 日本乳癌学会認定施設となりました。2月からは、無痛で乳がんの検査ができる乳腺MRIも稼働を開始します。どうぞ安心してご相談ください。



部門紹介 2022 | 回復期リハビリテーション病棟

3階回復期リハビリテーション病棟は37床を有し、病棟専従医師、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）、社会福祉士が常駐し、看護師、介護士、管理栄養士、薬剤師、ドクタークラークのチームで構成されています。

脳卒中などの脳血管疾患や大腿骨等骨折の患者さま、外傷等により脳・脊髄を損傷された患者さまが当院急性期病棟・近隣の急性期病院での治療後、安心して自宅や地域社会等へ戻れるよう、PT、OT、STによる集中的なリハビリテーションを365日提供しています。

「食事をする」「着替える」「トイレへ行く」「入浴する」「余暇を楽しむ」等と自宅での生活を想定し、リハビリスタッフがいない就寝前から早朝にかけては、看護師・介護士が関わり「リハビリテーション看護」を実施しています。また、退院後の生活を見据え、訓練で「できるADL※」を、日常生活の中で「しているADL」に繋ぎ、更に「自分らしく」自立した生活に繋いでいくために、患者さま・ご家族さまと定期的に面談を行っています。

今後も安全・安心・信頼と納得の得られる医療サービスと「質の高いリハビリを効果的に」提供しつつ、チーム一丸となって思いやりと親切丁寧な対応で日々務めて参ります。

※ADL：日常生活動作

3階病棟 管理職一同



シリーズ健康豆知識 【椅子を使った簡単な立ち座り運動】

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、身体を動かす機会が減っている方が増えています。運動不足は心身の健康に影響を及ぼしますので、椅子を使ってできる簡単な運動をご紹介します。

※膝とつま先の位置は同じくらいに ※背筋を伸ばして少し浅めに椅子に座る



① 股関節の動きを意識して5秒かけてゆっくり立ち上がる
《10回ずつ》

② 股関節の動きを意識して5秒かけてゆっくり腰掛ける
《10回ずつ》

WEB版みんなの健康講座

※オンライン配信

◇ WEB版みんなの健康講座はホームページ、スマホ（QRコード）からいつでもご視聴いただけます。

